

2024年「高知資料ネット」の活動

メール: h-obata@kochi-u.ac.jp

住所: 高知市曙町2-15

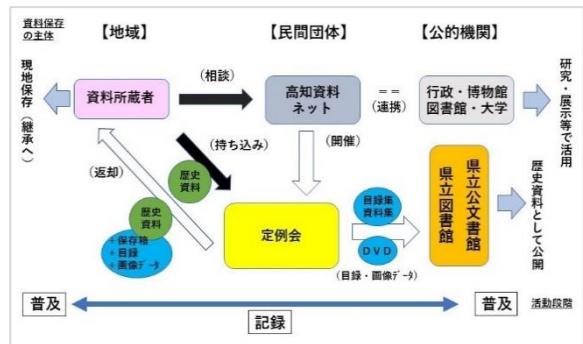
高知大学小幡尚研究室



↑ Facebook

▼高知地域資料保存ネットワークとは 市民発の資料ネット

高知県内の戦争資料の散逸を危惧した市民の呼び掛けで2016年に高知戦争資料保存ネットワークとして発足。県民の関心の高い戦争資料から始め、文化行政のケアが行き届かない民間所在資料の記録と公的機関への保存の働きかけを目的に活動を開始した。2021年に「高知地域資料保存ネットワーク」に改称。所蔵者と共に資料整理を行う「高知資料ネットモデル」で資料の現地保存を支援し、9年間で90件約4千点の資料を記録している。



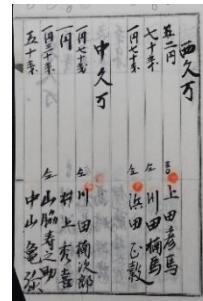
▼2024年の活動

2024年は、毎月1回計12回の定例会で、10件約500点の資料の記録・保存支援を行った。また、トヨタ財団・統計情報開発センターの研究助成を活用し、2024年3月には2023年に行なったシンポジウムの記録集『歴史資料保存と土佐清水』を刊行。地理情報システム(GIS)を使った記録資料の所在把握や災害リスク分析(トリアージ)も進めている。以下主要な活動について紹介する。



近現代資料10件を整理

明治～昭和期の資料を中心に、県内から記録保存の相談を受け、10件を撮影・保存処理、所蔵者に返却した。特に、谷直利資料は200点近い満蒙開拓青少年義勇軍関係の一次史料で、内蒙地区の開拓団の実態を知る貴重な史料であった。また、土佐特有の楠神信仰が近世以降、高知城下で広がっていたことを示す薬神社資料も整理した。また、日中戦争期の113点の出征旗(川添渉資料)の自由民権記念館での展示も実現した。



(左) 薬神社資料 (右) 川添渉資料の展示



順位・出し手	記録者	記録資料の特徴			活動期間	活動内容
		古文書	研究書	参考書		
記録1 チームの指定	△	○	×	○	×	2018年 高知市と市民、市民と研究者の協働
記録2 情報の収集	△	○	○	○	×	手帳用、文部省
記録3 整理計画の立案	○	△	○	○	×	研究方法の検討
記録4 データの記録	×	○	○	○	2019年1月 ～2022年1月	資料撮影、資料整理、音声登録
記録5 チームの整理	×	○	○	○	×	資料撮影、データ登録、資料整理
記録6 データの分析	×	△	△	○	△	2022年1月 分析整理、資料分析、自由操作作業
普及7 結果の公表	×	○	△	○	○	自由操作用、チームの公表
普及8 広報・啓発	×	△	△	○	○	2023年1月～ SNS、資料展示、シンポジウム、説明会
普及9 他組織との連携	○	○	△	○	○	2021年～ 連携団体、団体連携
普及10 文化資源の活用	○	△	△	△	○	2022年1月～ 活用度、地域との連携

シンポ記録集

上岡家文書モデルの実践プロセス

GISを使った整理資料の災害リスク分析

以前から進めてきた整理資料の現地保存支援や災害時の文化財レスキューを想定した、GISによる災害リスク分析を進めた。整理後に返却した約30点の資料について、所在地の位置情報と南海トラフ地震の浸水予測マップを重ね合わせ、周辺の浸水状況とも併せて被災リスクをA・B・C・Dの4ランクに分類した。浸水域には入らない場所でも浸水地域に囲まれて、資料搬出が難しい家屋があるなど現状が把握でき、被災時の状況を想定した文化財レスキューの優先度や計画作りを進める必要があることを再認識した。



(左) 高知資料ネットの整理資料データベース

(右) GISを使った整理資料の被災リスク分析
(高知市中心部)